

國學院大學栃木短期大学

FD 委員会活動報告書 第 14 号

令和 4（2022）年度の活動報告

1. 第 1 回研修会
2. 第 2 回研修会
3. 授業アンケート
4. FD 委員会活動記録



1. 第 1 回研修会 令和 4（2022）年 7 月 13 日（水）実施

研修会テーマ

「ICT の活用とその技術」

I 開催日時：令和 4 年 7 月 13 日（水）

14：30 ～ 16：35

II 場所：735 教室

III 参加者：短期大学教職員全員

IV 研修会の趣旨

本年度は、授業改善を更に進めるため、普段の授業改善の工夫や努力について情報共有をし、授業力の向上に資する研修会を目指しました。特に、本年度は、ICT の活用に焦点を当て、普段の授業における教育効果を高めるための技術的な側面について研修を行うこととしました。普段の情報処理や授業で使うソフトの使い方など、基本的な操作から活用方法まで、様々な課題を出し合いながら、授業改善に役立つ研修会を目指しました。

V 研修会の実際

(1) 開会の挨拶：FD 委員長

(2) テーマ「ICT の活用とその技術」

- ・司会は、各フィールドの教務委員

研修テーマの主旨説明

フィールド毎によるグループでの情報交流

「学内 WEB システムの使い方」

「普段の授業で使いたい機器や手法など」

「Zoom Meetings」の使い方 等

情報交流内容の集約

(3) 情報交流内容の発表（質疑）

フィールド毎に 5 分程度の報告発表

(4) 「ICT の活用方法と注意点について」

指導者 境 智子 技師

(5) 閉会の挨拶：FD 副委員長

VI 研修の成果

本年度より、新機種を導入したため、OS が Windows 11 に変わり、Office が Microsoft 365 に変わった。このため、旧機種との基本的な操作方法の違いによる戸惑いなどが多く聞かれた。そこで、新機種との違いや初期設定の方法、基本的な操作手順やメールアドレスの設定など、全教職員が円滑に新機種を使っていく上での技術の共通理解が図られた。

また、学内 WEB システムのグレードアップに伴い、欠席調査や成績管理などを使って、リアルに学生の状況を捉える方法を共通理解した。

コロナ禍が落ち着き始めたことで、対面授業が再開されたが、今後、ICT 利用が更に重要性を増すであろうことは明白です。また、通常の会議では、新機種の導入による操作方法の技術的な研修は行われ難いため、今回のような研修には効果があったと考えられます。（文責 都留覚）



2. 第 2 回研修会 令和 5（2023）年 1 月 18 日（水）実施

研修会テーマ

「合理的配慮について」

第 2 回の FD・SD 研修会は、前半が 3 名の講師による報告と講演、後半がグループに分かれてのワークショップという二部構成で行われた。前半の内容については、各講師のまとめにあるとおりである。後半のワークショップについては以下のように実施された。

まず、参加した教職員を、それぞれ 6 名程度の 6 グループに分ける。各グループは、「何らかの合理的配慮を要する学生の事例」をテーマとして提示され、「その学生に学校はどのような対応をすべきか」という課題を与えられる。各グループは課題について協議しながら、その結果を模造紙にまとめていく。各グループは、協議の途中に、「偵察員」を他グループに送って、他グループの協議内容を参照することが許される。協議終了後、休憩を挟んで、各グループの代表者は、5 分間程度の発表を行った。用意された事例は 3 つだったので、各事例について、2 グループずつが発表した。

発表後、星講師と熊倉講師から発表について、コメントがなされた。最後に、質疑応答が行われ、今後、学校としてこの問題にどう対応していくかが協議された。

（1）令和 4 年度私立短期大学学生生活指導者研修会の報告 学生課 野口貴子

「令和 4 年度 私立短期大学学生生活指導担当者研修会」（令和 4 年 9 月 21 日（水）9:45～15:30）に参加いたしましたので、ご報告させていただきます。

研修会の主題と目的は、新型コロナウイルス
KOKUGAKUIN TOCHIGI JUNIOR COLLEGE

の影響を受け、学生たちの学修活動・経済的側面・人間関係や心身にわたる制約や苦勞がいろいろ多様になっている状況に対し、よりよい学生支援を提供できるよう、各学校担当者の知恵を練り合う場として Zoom にて開催されました。

午前の部では、「成年年齢引き下げに伴う短大生の消費者被害防止について」日本貸金業協会教育研修部消費者啓発課の方より講演がありました。成年年齢引き下げで金融関係の契約関係トラブルが増加しているそうで、そういった相談を学生から受けた場合に紹介できる相談窓口の紹介がありました。

午後の部では、分科会研修になり次の 3 グループに分かれての意見交換でした。

A・・・心身健康について

B・・・学生支援、奨学金について

C・・・学生生活、課外活動について

参加しました A グループで意見交換した内容の中で、2 つほどここに挙げます。

1. LGBTQ の事例で、新入生のひとりが、身体的には男性であるが心は女性であるので、対応としてお手洗いを誰でも幅広く使用できる箇所を設置した。

2. ある学校では、新入生の入学前事前相談および親睦会を希望する方の意向を調査し、その時間を設けたところ 20 人程度の参加があり、入学式からの学校生活がスムーズになっていることを実感した。

その後、また新たな 4 つのグループに分かれ、前半に話し合えなかった内容で情報交換しました。今後の学生支援に役立てたいと思います。

(2) 講演 専任講師 熊倉志乃

合理的配慮は、障害（疾患）を理由に評価を甘くすることではありません。シラバスに書かれた到達目標はそのままに、評価の方法を学生の実態に応じて工夫することだと考えます。学生たちには、オリエンテーション期間中に「合理的配慮申請は、学ぶ意欲に対し本学が応える制度であり、学習スタイルや評価の方法を調整しても、基準に達しなければ単位を取得することはできない」と話しました。

今年度は特に、経年に渡り合理的配慮を受けてきた学生が、迷うことなく書類を揃え手続きを申し出ており、義務教育、高等学校等で合理的配慮が浸透していることを強く感じました。彼らは自身の障害（疾患）や必要な配慮について熟知していますが、大学の授業は初めてです。そのため、当初申請した内容ではうまくいかないことも出てきます。

合理的配慮でもっとも大切なのは、支援をする側と受ける側のコミュニケーションです。学生本人が授業に取り組んでいるか適宜確認し、声をかけ、場合によっては大学の授業に不慣れた学生にこちらから新たな方法を提案することにも必要かもしれません。先のFD・SD研修でのグループワークは、合理的配慮を柔軟に考え、支援の幅を広げることを目的としたものでした。たくさん貼られた付箋に書かれたアイディアは、障害（疾患）はあるけれど、本学で学びたいという学生にとっての希望の光です。基準は下げず、そこにたどり着く道筋は柔軟に考えていただくことが、合理的配慮のコツではないでしょうか。



KOKUGAKUIN TOCHIGI JUNIOR COLLEGE

(3) 講演 専任講師 星雄一郎

令和5年1月18日の水曜日のFD・SD研修会では「学生支援と合理的配慮の提供の現状と課題」と題して教職員併せて研修を行いました。まず、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき、今年度より本学が行なっている学生に対して提供している合理的配慮の現状と課題について確認を行いました。具体的な合理的配慮の内容やその対象となる学生について説明を行い、支援の要請から合理的配慮の内容の検討、実際に提供を行い、それを改善していくまでの支援の流れについて理解を深めました。本学ではスクールカウンセラの熊倉先生と学生課の職員による入学前相談が行われており、その現状についても報告があり、全教職員で共通理解を図りました。

次に、実際の事例を題材として合理的配慮の提供について計画するKJ法を用いたグループワークを行いました。教員は学科、フィールドの垣根を超えて活動に参加し、職員とも関連な意見の交換などができる研修となりました。結果として、教職員全体で合理的配慮を提供し、学生の学習機会を確保していくための方策について共通認識を持ち、理解を深められました。

今後の課題として、学生支援と合理的配慮の提供を本学全体で組織的に行うための体制作りが挙げられました。加えて、学生へ実際に合理的配慮を提供する教員（科目担当者）の負担を軽減するためにも配慮の実際の手続きについては継続して研修を行なっていく必要があると考えられます。

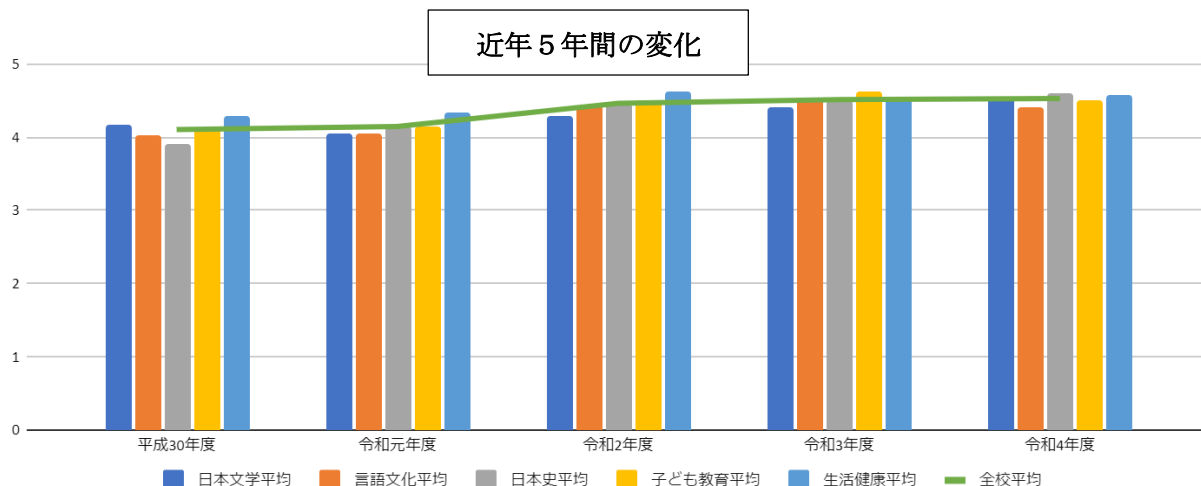


<https://www.kokugakuintochigi.ac.jp/tandai/>

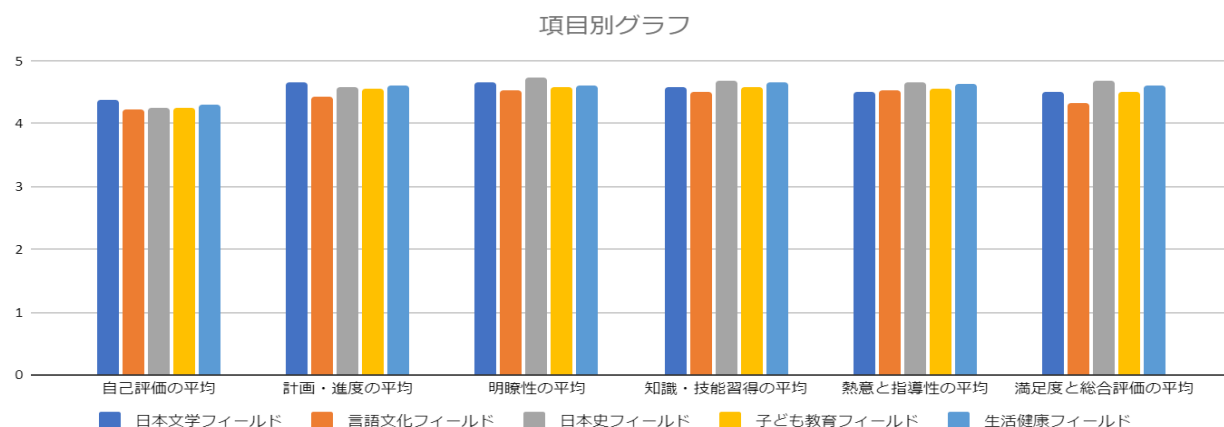
3. 令和 4（2022）年度授業アンケート

授業アンケートの結果と分析

平成 30 年度からの変遷を比較すると、令和元年度と令和 2 年度の間で遠隔授業が行われた結果、ICT の活用が促され、授業評価の数値が向上していることが捉えることができます。



本年度の集計結果からも、全ての項目において、全てのフィールドでの回答が、4.2 を上回っていることから、授業についての満足度は、高い水準を保っていると捉えることができます。



4. 令和 4（2022）年度 FD 委員会活動記録

(1) 定例委員会

第 1 回 FD 委員会：令和 4 年 4 月 20 日
 第 2 回 FD 委員会：令和 4 年 5 月 18 日
 第 3 回 FD 委員会：令和 4 年 6 月 15 日
 第 4 回 FD 委員会：令和 4 年 7 月 20 日
 第 5 回 FD 委員会：令和 4 年 9 月 28 日
 第 6 回 FD 委員会：令和 5 年 2 月 24 日

(2) 研修会

第 1 回 FD・SD 研修会：令和 4 年 7 月 13 日
 第 2 回 FD・SD 研修会：令和 5 年 1 月 18 日

令和 4（2022）年度

國學院大學栃木短期大学 FD 委員会活動報告書 第 14 号
 令和 5（2023）年 6 月 30 日発行

編集：國學院大學栃木短期大学 FD 委員会